

## 平成 28 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	ねごしの寺子屋」～地域の茶の間における児童学習・余暇支援
2 事業推進者等	(所属部局) 自然・生活教育学系 (責任者職名・氏名) 教授・得丸 定子 (共同実施者職名・氏名) 学部 4 年生齋藤なつの・大島未乃里
3 学外の連携機関等	1. (連携機関等名) 常設型地域の茶の間「ねごしの里」、 (担当者職名・氏名等) 代表・古海 誠一、 2. (連携機関等名) 神戸松蔭女子学院大学 (担当者職名・氏名等) 講師・奥井一幾
4 事業の趣旨・目的	本事業は平成 24 年度から実施し、平成 28 年度で 5 年目の取組みであり今回が最終取り組みであった。これまでの取り組みは地域住民や実施周辺諸学校より大変好評を得てきた。人口過疎地域では、H24 年当初は児童数等を理由に放課後児童クラブを組織できない状況があり、過疎地域の次世代育成・子育て支援への問題が生じていた。この状況打開への試みとして地域に密着した児童預かり及び学習支援の場を提供してきた。具体的には「常設型地域の茶の間」を活用した、小学生への「地域密着型・学習支援プログラム」である。実施には学生ボランティア、地域住民(中学生や高校生を含む)と協同し事業の運営を行う。ボランティアには一部有償化を図る。児童への学習支援、高齢者との世代間交流、地域人材を活用した伝統学習を計画し、現在では、本実践の結果が現れ、当該地域住民や周辺諸学校に大変好評で、申込者も増加し人数制限を行うほどにまでなった。
5 事業活動報告	一年間の活動計画を以下に挙げる。 5 月 9 日 ; 第一回計画打ち合わせ (各自の分担、事業計画の共有) 5 月 10 日 : 近隣地域小学校への周知と協力依頼 7 月 10 日 : 第二回計画打ち合わせ (事前準備) 8 月 2-5 日 : 「夏のねごしの寺子屋」実施、参加者 : 小学生 26 人+中学生ボランティア 9 人+大学生 5 人+大学OB 3 人 9 月 1 日 : 第三回・事業計画打ち合わせ (反省及びプログラム修正) 10 月 10-11 日 : 近隣小学校への周知と協力依頼 12 月 27-28 日 : 「冬のねごしの寺子屋」実施、参加者小学生 21 人+中学生ボランティア 12 人+大学生 2 人+大学OB 2 人
6 本事業で得られた成果	本事業は、大学(生)と板倉区小学生・住民・学校とにおける交流・地域人材活用・世代間交流の好機として展開できた。最終年の小学生参加者数は、H28 年の夏 26 人、冬 21 人であった。注目すべきことは中学生ボランティアである。当初、5 年生として寺子屋に参加した児童が中学生になってもボランティア参加した(H28 夏 9 人、冬 12 人)。これは、地域に根付いてきた活動と考えられる。また、地域住民、参加者の保護者からも暖かい励ましをいただいた。
7 その他(成果物等の名称)	資料添付 ; ねごしの寺子屋案内(夏休み版、冬休み版)、活動写真、参加者名簿 課題 : このようなボランティア活動を継続させるためには活動を個人活動に終わらせない第 3 者組織(把握・人材の振り分け・派遣を行う)の設立の必要性を痛感している。活動責任者の退職等により実践継続できなくなってしまうのは惜しむべきことであろう。



昼の憩い



活動 ○×クイズ



英語で自己紹介



自己紹介の下書き



おやつ時間

H28 冬のねごしの寺子屋 活動風景



おばちゃんたちの朝のミーティング



おばちゃんたちの昼ご飯作り



朝の出席チェック



寺子屋開始前のひと時



美味しいお昼



